ボクは、キミのことを

ROCK IMAZIN

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボクは、キミのことを

【Nコード】

N6922Q

【作者名】

ROCK IMAZIN

【あらすじ】

君のことが好き。

その一言を伝えるのはもっと後なんだ。

(前書き)

久しぶりのLong Poemです。

僕は、君のことが好きです。

でも、どうせもう逢えなくなってしまうのなら僕は君を好きでいるのが辛い。

だから僕は君を嫌いになりたいんだ。

でも、それは無理。

もし、それが出来るのならとつくにやっている。

だから僕は、君が僕を嫌いになるまでこの気持ちは抑えます。

いつか君が僕のことを嫌いになってくれますように。

僕はそのためならどんな悲しみも味わうから。

だからせめて君は、僕の視線に気付かないで。

君に逢うとき、逢うとき

いつも僕は君と視線をあわせられない。

それは簡単

君と目をあわせると僕はこの気持ちが表れてしまうがするから。

そうしたら君に僕の気持ちが伝わってしまうから。

それだけは避けないと。

もう、数ヶ月で卒業式。

そうしたら僕と君はもう逢えないから。

それが僕には辛すぎるから。

せめて今、心残りが無いように。

君さえ僕に

「嫌い」

その一言をくれたら何か変わるかも知れないから。

僕は君と視線があいそうになる。

そのとき僕はわざとらしく君から視線をソラス…………。

そして君がもうこっちを見なくなったら僕は君の背中を追い続ける。

そしてまた、君がこっちを見ないようにと願いながら。

君がこちらを見たらわざとらしく視線をソラス…………。

そして君がもうこっちを見なくなったら僕は君の背中を追い続ける。

その繰り返し。何度も何度も。同じことを。

そうしたいつの間にか 僕が君のことを嫌い。

そんな話が流れるようになった。

でも、まだ僕は君が僕のことを嫌いでいるかを知らない。

君はまだ言わないでいるのかな？

君の悪いところはすぐ人に情けをかけるところ。

そしてそれは、いつも弱い人に。

君は僕が弱い人だって本当に気付いてるみたい。
だから、言わないのかもしれないね。

それとも、君は僕が君のことを好きでいるともう気付いたのかな？
そうしたら、君は言わない気がする。

いや、違うかな。

君はもう何度も言っているんだ。
ただ僕がそれを聞こうとしないだけ。

耳を塞いで、精一杯せいこいぱい聞かないようにと知らないように。
そうしているだけなんだ。

知ってしまったら僕は――

なにも想像が出来ない。

真っ暗な闇しかないようだ。

でも、僕は君が僕のことを嫌いでいることを願います。

そうしたら、僕は君に届けることが出来るのかな？
君のことが「好きです」って。

いつかこの気持ちが届きますように。

あと、

いつまでも、僕は君に恋をします。と

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6922q/>

ボクは、キミのことを

2011年10月8日03時25分発行